

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

小国町社会福祉協議会は、高齢福祉課養護老人ホーム・有料老人ホームの建替えの際に、令和元年度再生可能エネルギー普及促進事業の助成を受け、バイオマスボイラーと太陽光発電を導入した。また、平成30年度国よりSDGs未来都市に選定された小国町と協調しながら、地域福祉を推進する中核団体として、社会的な課題に向き合い、SDGsを推進していく。

また、農福連携部門においては、耕作放棄地を活用した大豆等農産物栽培により地産地消の文化を守り、休耕地の減少や障がい者の社会参加と雇用の維持、さらには、観光資源のひとつとしての発展を目指す。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に◎)	SDGsに関する重点的な取組み	指標
○環境 ◎社会 ○経済	高齢者・障がい者などの社会参加を促進し、行政や民生委員等との連携と協働により、地域共生社会の実現を目指します。	シルバー人材センター収入増加(10%増) 障がい者の所得増加(10%増)
◎環境 ◎社会 ○経済	耕作放棄地を活用して、大豆を育て、安心安全な豆腐を作っています。また、小国郷の自然豊かな里山の風景も維持しています。 農業や豆腐製造、農福連携レストランでの接客業務を通して、障がい者の社会参加に取り組んでいます。	農福連携事業における新商品の開発(6次産業化) 障がい者スタッフの増員(25名 → 30名)
◎環境 ○社会 ◎経済	持続可能でクリーンで安全なエネルギーである、温泉の地熱を活用した「農福連携レストラン」を運営しています。熊本県産の食材、地元野菜を使った地獄蒸し料理を提供し、地産地消の取り組みも行っています。	農福連携レストラン利用者及び売上の増加(20%増)

<パートナーシップ>

小国町社会福祉協議会は、小国町、小国町森林組合、小国町商工会、ボランティア連絡協議会など、行政や公共団体、ボランティア団体等との連携により、誰もが住みやすいダイバーシティの実現を目指していく。

また、農福連携部門では、施設を所有する小国町・施設を管理するわいた温泉組合・耕作放棄地を所有する地域住民等との連携により農福連携事業と6次産業化を行い、商品の製造・販売を行う。

- ・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
- ・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。
- ・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携があれば記載してください。

○ SDGsに関する重点的な取組み及び指標に係る進捗状況(※更新の場合のみ。)

○登録状況:第 期登録(登録年月日: 年 月 日)

○登録番号: 号

<SDGsに関する重点的な取組み状況、前期の指標及び実績>

三側面 (分野に◎)	取組みの状況	前期の指標	実績
○環境 ○社会 ○経済			
○環境 ○社会 ○経済			
○環境 ○社会 ○経済			

・「登録状況」及び「登録番号」を記載してください。

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。